

# 日本留学前の学習者を対象とした『まるごと 入門』かつどうコース

センアルン コンラリアン  
ラオス日本センター

## 1. 実践の背景

2013年11月に開講した入門コース（ひらがな、カタカナを中心に学習する、総合日本語コース入学前の予備過程の講座）に入学した学習者の中には、2014年4月より文部科学省国費留学生として、日本留学が決定している人が何人かおり、彼らより「もっと会話を中心に学習したい」との声が上がった。開設している入門コースで彼らのニーズに対応するのは難しいため、別途、会話中心クラスの設定を検討することにした。

## 2. 1回目の実践

2013年12月のコースについて報告する。これは、初級から中級まで総合的に日本語を学習する「通常コース」とは違い、ある一定の学習者のニーズに合わせてコースをデザインする「特別コース」である。

### 2.1 コースデザインの流れ

#### ニーズの調査・分析

##### 参加予定者数の把握

講座の運営上、10人以上の参加者が見込まれないと特別コース開設は難しい。在校生に対して「短期会話クラス」への参加を希望するかどうか、ヒアリングを行うとともに、留学予定者のネットワークを通じて、他に受講希望者がいるかどうか調査した。

##### 学習内容のニーズ調査

- ・参加予定者（主に通常コースに在籍中の留学予定者）の声  
⇒日本の生活ですぐに使える会話表現を学びたい
- ・留学経験のある教師の意見  
⇒会話表現とともに、社会文化の知識も必要

##### 学習可能期間、時間帯の調査

- ・いつまで、週何回、どの時間に受講が可能かの調査

#### コース目標の決定

ニーズ調査より、対象者、学習内容、学習時間の決定、またそれに基づいた到達目標を決定した。

## カリキュラムの作成

### 使用テキストの決定

文字指導なしに、日常の簡単な会話表現と社会文化を学習できるテキストとして、『まるごと 入門』『かつどう』編を使用することにした。

### 副教材の決定

学習の補助教材として、語彙や文法の解説、また宿題シートなど、配布物を決定した。宿題は、通常コース（『まるごと 入門』『かつどう』編、「りかい」編併用）で用いているものを基に、「りかい」編のみで扱われている内容を削除し、ローマ字ルビを付けたものを使用することにした。

### その他、授業の進め方等の決定

- ・授業ではパワーポイントを使用する。
- ・パワーポイント、及び学習者への配布物はひらがな・カタカナとローマ字を併記する
- ・「生活と文化」以外にも、『まるごと』に出てくる社会文化的要素に注目し、授業で取り上げる。
- ・授業の中での表現の形の確認、文法解説書の配布はするが、詳しい文法説明は行わない。

### 評価方法の決定

- ・10 課終了後の中間試験、18 課終了後に期末試験を実施する。
- ・試験は、筆記（聴解、及び主に語彙や会話表現を問う）と口頭インタビューを実施する。

### 授業スケジュールの作成

授業日、毎授業の学習内容を記載したスケジュール表を作成する。

### 担当講師の決定

毎回の授業を担当する講師を決定し、授業スケジュールに記載する。

※カリキュラム作成後、コースの広報を行った。通常は新聞広告も行うが、今回の実践コースは設定から開講まで時間がなかったため、センター内でのポスター掲示、及びFacebookでの一般広報を行った。

## 授業開始

## 2.2 実践の内容

- ◆コース名：会話と社会文化短期コース（レベル：A1）
- ◆期間：2013年12月3日～2014年2月25日（11週）
- ◆時間：週2回（火・木）、17:00～19:00、120分×22回＝44時間
- ◆対象：日本語を初めて勉強する人、基本的な日常会話と社会文化を学びたい人  
※2014年4月から日本に国費留学生として行く予定がある人中心

◆**受講者**：15名（年齢：10代3人、20代9人、30代3人、職業：高校生3人、大学生5人、会社員7人）※うち留学予定者は7名、センター内入門クラス受講者（並行受講）もあり。

◆**担当講師**：報告者および報告者以外の教師3人（4人が交代で担当）

◆**目標**：①日本での生活ですぐに使える基本会話を身に付ける  
②日本での生活に役立つ社会文化を学ぶ

◆**教材**：主教材：『まるごと 入門A1』「かつどう」編  
副教材：語彙帳（『まるごと』オフィシャルサイト学習リソースより）  
文法解説（ローマ字ルビ付き、ラオス語のもの）  
宿題シート（課ごと、ローマ字ルビ付きのもの）

◆**留意点**：

- ・基本的に文字指導は行わないが、教材にはひらがな・カタカナとローマ字を併記する
- ・口頭コミュニケーションの他、日本で生活するにあたって必要となる社会文化面にも注目する（教科書の「生活と文化」、各課で取り上げられている内容で、日本での生活に必要なであると思われるものを取り上げる

◆**予定**： ※「★」は「生活と文化」以外のもの

回		課	社会文化	回		課	社会文化
1	トピック1	1,2課	名前の呼び方	12	トピック6	11課	季節の行事①
2	トピック2	3課	名刺交換★	13		12課	季節の行事②
3		4課	家族の呼び方	14	トピック7	13課	日本の交通手段★
4	トピック3	5課	食事のマナー★	15		14課	日本の町
5		6課	ファーストフード店	16	トピック8	15課	
6	トピック4	7課	日本の家	17		16課	日本のお土産
7		8課	訪問のマナー★	18	トピック9	17課	日本の観光地①
8	トピック5	9課		19		18課	日本の観光地②
9		10課	日本人の生活習慣	20	11～18課の復習		
10	1～10課復習			21	期末試験		
11	中間試験			22	学習のフィードバック・修了式		

◆**学習の評価**：

	中間試験	期末試験
<b>筆記</b>	聴解、語彙、会話表現	
<b>インタビュー</b>	一日の生活について	趣味、休みの日について 旅行の経験について
<b>ロールプレイ</b>	初対面の人との会話	誘いに応える

※インタビューとロールプレイは日本人教師が相手をする

なお、当初のコースデザインには含まれていなかったが、実践を行う中で、下記2項目を加えることにした。

①期末試験のインタビューでは「発音（発話の聞きやすさ）」「会話ストラテジー（あいづち、聞き返しなど）」も評価

②修了式で「学習達成シート」を配布、また、修了書も配布

①については、ごく限られた語彙、表現を用いる入門レベルの学習者でも、発話内容が相手に伝わり、またコミュニケーションを成立させようという意志を見せるというサバイバル的な面の育成にも注目すべきと考えたからである。②の「学習達成シート」は、このコースでは中間や期末試験での総合獲得点数が何%、といった評価だけではなく、各トピックでのコミュニケーション達成度、及び発音、語彙といったコミュニケーションの要素における自身の達成と課題を、学習者自身が把握することが重要であると考えたためである。コミュニケーション達成度（シート中の「会話」部分）は3段階評価し、達成度をグラフでも示した。※「学習達成シート」例は資料1を参照

### 2.3 実践の振り返り

終了時評価として得た学習者アンケート、留学後の学習者のコメント、及び担当講師の観察によるコメントをもとに、関係講師で実践を振り返り、下記項目を改善が必要な点として抽出した。

- 1) 課によっては教授内容が多く、学習者も教師も内容を十分に消化できていない。
- 2) 学習者は会話中心の授業を希望しているが、一方で文法の理解を求める声もある。
- 3) 「かつどう」編のみを用いて、コミュニケーション力育成を目標とした授業を実施しているが、教師によっては文法的な説明に時間を多く割いている。
- 4) 中間試験と期末試験のインタビュー時以外、ほとんど日本人と会話練習する機会がない。
- 5) 文字（ひらがな、カタカナ）の学習は行わなかったが、訪日後に学習の機会がなく、困難を感じる学習者もいる。

## 3. 2回目の実践

2014年4月になって、8月よりJDS（公務員を対象とした日本の大学院への留学制度）プログラムで日本に留学することが決定した人から、短期間の会話中心コースへの問い合わせがくるようになった。5月より講座を開講すべく、前回の実践の振り返りを反映した2回目のコースデザインを開始した。時間数や使用テキスト等の大枠は同じであるが、上記2.3の改善が必要な点を踏まえ、下記のように変更することにした。

### 3.1 改善点と変更点

【前回の実践で改善が必要だと判断された点】

上記2.3 1)～5)に沿ってどう変更したか述べる。

- 1) ⇒各課の授業内容について、「紹介程度でいい」、「語彙を加える」等、取り上げ方や工夫を教師用カリキュラムに明記する。
- 2) ⇒前回は毎授業ごとに配布していた文法解説書を最初に一括して配布し、文法理解を求める学習者には予習を促す。
- 3) ⇒コースの目標、授業の進め方について、事前の講師打ち合わせをしっかりと行う。
- 4) ⇒ラオス人講師と日本人講師のチームティーチングを実施する。

- 5)⇒毎回授業の最初10分程度、ひらがなとカタカナ（形、発音）の紹介と、語彙の読み方練習を行う。但し文字学習は必修とせず、評価対象にはしない。

#### 【その他の変更点】

- 1)～5)に加えて変更した点を以下に整理する。
- 6) 日本社会文化の紹介に対して、非常に有益であるとの声が多かった。1回目の実践では、主に『まるごと』の内容にそった紹介であったが、2回目では『まるごと』のトピックに関連した内容（後述「授業内容」の★★）を、『まるごと』以外のリソース（DVD、インターネット）も使って紹介する。
- 7) 口頭表現の定着を図るため、学期の前半、後半1回ずつスピーチ発表を実施する。
- 8) スピーチ発表原稿や、文化体験記録シートなどを保管、記録できるポートフォリオを使用する。これは、授業内で行った自己紹介スピーチや文化体験記録を訪日後、学習者が振り返りやすくするためである。
- 9) ポートフォリオには、『まるごと』の学習以外に、自分の自己目標や、文字学習の成果（希望者のみ）を記入、確認できる「学習記録シート」も入れ、訪日後も自律的な学習を継続するよう促した。**※学習記録シートは資料2を参照**
- 10) 宿題は、授業内容に合わせ、会話表現を中心としたものに修正していく。（前回は『まるごと』『かつどう』編、「りかい」編を併用する通常コースのものをそのまま使い、「りかい」編の内容や漢字語彙など、このコースで学習しない内容も含まれていた）

### 3.2 2回目のコースデザイン（波線\_\_\_\_\_のところは、前回との変更点）

- ◆**期間**：2014年5月3日～7月20日（予定）
- ◆**時間**：週2回（土・日）、2時間×22回＝44時間
- ◆**対象**：日本語を初めて勉強する人（8月にJDSプログラムで日本留学予定の公務員中心）
- ◆**受講者**：11名（JDS以外、2名）
- ◆**目標**：①日本での生活ですぐに使える基本会話を身に付ける  
②日本での生活に役立つ社会文化を学ぶ  
③自分にあった学習方法を見つけ、今後の学習につなげる
- ◆**教材**：主教材：『まるごと 入門』『かつどう』編  
副教材：**※副教材例（宿題シート、文法解説）は資料3、4を参照**  
語彙帳（『まるごと』オフィシャルサイト学習リソースより）  
宿題シート（語彙と会話表現復習のため、課ごと、ローマ字ルビ付きのもの）  
文法解説（ローマ字ルビ付き、ラオス語、初回にまとめて配布）  
ポートフォリオ（Can-Doチェック、学習記録、文化体験記録各シート、及び成果物）

## ◆授業内容：

※★★が今回新たに加えた社会文化

回	トピック	課	授業内容のポイント	社会文化
1	授業前エンタメーション			日本人とおじぎ★★
	日本語について		表記、発音の特徴、ローマ字と発音の紹介	
	1	1課	あいさつ	
2	日本語について		復習	日本人の名前の呼び方
	1	2課	カタカナの紹介（名前の書き方も確認） 数字（1～100）も紹介しておく	
3	2	3課	職業の語彙を加える	名刺交換
4		4課	数字の復習（年齢の言い方で出てくる） 人の数え方紹介	家族の呼び方
5	3	5課	ラオスの食べ物（主に朝ご飯）追加	食事のマナー
6		6課	「メニューを読む」は目標から外す 数字の復習⇒値段 物の数え方紹介	日本のレストラン★★ ・注文や会計の仕方 ・割り勘やおごるとき
7	4	7課	Eメールで誘うは内容の確認のみ	日本の家
8		8課	P59「住みたい家」は宿題にしてもいい	訪問のマナー
9	5	9課	時間の言い方を最初に練習（分は紹介程度） 「一日の生活」ミニスピーチ準備	日本人の生活
10		10課	カレンダーの言い方は12課で学習する 実際に今月誕生日の人にカードを書く	日本の生活のマナー★★ （携帯電話、付き合い）
11	1～10課復習、文化体験記録発表、ポートフォリオの共有 「一日の生活」ミニスピーチ発表			
12	中間試験（語彙・会話表現筆記＋口頭）			
13	6	11課	テストのフィードバックもする	季節のイベント①
14		12課	日付の言い方を最初に紹介しておく	季節のイベント②
15	7	13課	タクシーの会話は覚えなくてもいい	日本の交通について
16		14課	営業時間の漢字語彙を紹介してから、p91を読む	日本の町にある物 営業時間★★
17	8	15課	物の数え方は種類など、紹介する 15課に出てくる東京の町についても紹介	日本のECO活動★★ （買い物、ゴミ）
18		16課	最初に数字の言い方を復習しておく	日本のお土産
19	9	17課	p106③の前に人の数え方を復習しておく	日本の観光地①
20		18課	p111のスピーチはなし 最終日のスピーチについて伝える	日本の観光地②
21	11～18課復習 期末試験（語彙・会話表現筆記＋口頭） 終了時アンケート実施			
22	テストのフィードバック 文化体験記録シート発表、ポートフォリオの共有 学習記録シートの確認 スピーチ発表（テーマは学習者が選ぶ） 修了式			

## 4. 今後の改善に向けて

2回目の実践を、1回目同様、学習成果、終了時評価、教師によるコース評価、及び、留学後の学習者の声によって振り返り、次の実践へと活かしたい。前回は留学後にこちらから連絡がとれる学習者数名の声しか聞けなかったが、今回は予め留学後の評価についての説明、協力依頼をしておき、なるべく多くの学習者の声が聞けるようにしたい。

「MARUOTO」 Katoudo o kurasu  
『まるごと』 かつどう (BC) クラス

nen gatsu nichi  
2014ねん2がつ27にち

## 学習達成シート

なまえ： \_\_\_\_\_

**【かいわ Can-Do】**

① 初めて会った人と簡単な会話ができる (自己紹介、家族について、住んでいる家・部屋について)  
 ② 1日の生活について、簡単な会話ができる (起きる時間、寝る時間、朝ご飯や昼ごはんについて)  
 ③ 自分のしゅみについて、簡単な会話ができる  
 ④ 友だちの誘いについて、曜日や時間を聞いて、承諾/断ることができる  
 ⑤ 旅行の経験と印象を簡単な言葉で伝えることができる  
 (①②・・・中間テスト、 ③④⑤・・・期末テスト)

Item	Score
①	2.0
②	2.4
③	2.0
④	3.0
⑤	3.0

①	B	Dekimashita できました
②	B	Dekimashita できました
③	B	Dekimashita できました
④	A+	Subarashii!! すばらしい!!
⑤	A+	Subarashii!! すばらしい!!

⑥ 【語彙・表現】 会話に必要な語彙や表現を適切に使うことができる  
 ⑦ 【発音】 聞きやすい発音で会話ができる  
 ⑧ 【コミュニケーション】 相手に反応したり、聞き返したりして、スムーズにコミュニケーションができる

**【りかい Can-Do】**

⑨ 【1～10課】 自分や家族、食べ物や家、一日の生活について表現するときの語彙や文の形を理解できている  
 ⑩ 【11～18課】 休みの日や自分の町、買い物について表現するときの語彙や文の形を理解できている

⑥	A	Yoku Dekimashita よくできました
⑦	B	Dekimashita できました
⑧	C	Ganbarimashou がんばりましょう
⑨	A	Yoku Dekimashita よくできました
⑩	B	Dekimashita できました

LJI JF Language Center

※実際に配布したのはラオス語版

## 「まるごと」がくしゅうきろくシート

なまえ：

		もくひょう	ちゅうかん	きまつ
かいわ	1. にほんご	日本語であいさつしたり、日本語で教室の言葉がわかる	☆☆☆	☆☆☆
	2. わたし	自分と家族について、簡単に紹介することができる	☆☆☆	☆☆☆
	3. たべもの	好きな食べ物や、朝ご飯、昼ごはんの習慣について簡単な会話ができる また、ファーストフード店で注文ができる。	☆☆☆	☆☆☆
	4. いえ	自分の家や部屋について、簡単な会話ができる	☆☆☆	☆☆☆
	5. せいかつ	いちにちの生活について、簡単に話すことができる また、パーティーをいつにするか、友だちと話すことができる	☆☆☆	☆☆☆
かいわ	6. やすみのひ①	しゅみや、休みの日によくすることについて話せる また、友だちをイベントにさそうことができる	/	☆☆☆
	7. まち	目的地までの行き方を、地図を見ながら、簡単に説明できる		☆☆☆
	8. かいもの	買いたいものや、どこで買えるか話せる 日本語で買い物ができる		☆☆☆
	9. やすみのひ②	休みに何をしたか、どうだったか、話せる また、旅行の思い出を簡単に話せる		☆☆☆

コミュニケーション		日本語で話すことに慣れる	☆☆☆	☆☆☆
		あいづちやジェスチャー、表情などを使って、楽しく会話ができる	☆☆☆	☆☆☆

もじ	ひらがな	読めるようになる	☆☆☆	☆☆☆
	カタカナ	読めるようになる	☆☆☆	☆☆☆

ぶんか		日本で生活するのに必要な社会文化について知る	☆☆☆	☆☆☆
-----	--	------------------------	-----	-----

じりつ がくし ゅう	(みんな)	自分の学習について、できること、できないことがわかる	☆☆☆	☆☆☆
		自分にあった勉強方法がわかる	☆☆☆	☆☆☆
ゆう	(じぶん)		☆☆☆	☆☆☆
コガト				

※実際に配布したのは、ラオス語に訳したA4サイズのシート（裏表）



資料3：宿題シート（『まるごと 入門』第11課 しゅみはなんですか）の一部

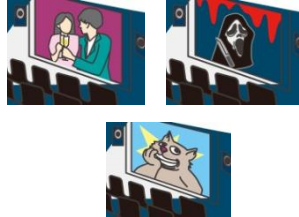
shumi  
しゅみ？

suki  
すき

saitoosan  
①さいとうさん



abesan  
②あべさん



① tanaka : saitoo shumi wa nandesuka  
たなか : さいとうさん、しゅみは なんですか。  
saitoo : watashi no shumi wa \_\_\_\_\_ desu  
さいとう : わたしのしゅみは、 \_\_\_\_\_ です。  
tanaka : donna \_\_\_\_\_ ga suki desuka  
たなか : どんな \_\_\_\_\_ が すきですか。  
saitoo : \_\_\_\_\_ ga suki desu  
さいとう : \_\_\_\_\_ が すきです。  
tanaka : soodesuka  
たなか : そうですか。

② tanaka : konnichiwa ano o shumi wa nandesuka  
たなか : こんにちは。あのう、しゅみは なんですか。

abe : shumi wa \_\_\_\_\_ desu  
あべ : しゅみは \_\_\_\_\_ です。

tanaka : e donna \_\_\_\_\_ ga suki desuka  
たなか : え、どんな \_\_\_\_\_ が すきですか。

abe : \_\_\_\_\_ ga daisuki desu  
あべ : \_\_\_\_\_ が だいすきです。

tanaka : soodesuka watashimo desu  
たなか : そうですか。わたしもです。

A	e e g a えいが
B	supo o tsu スポーツ
C	juu doo じゅうどう

